

年間第二主日

2011.1.16

ヨハネ 1・29-34

先週の日曜日で降誕節も終わり、教会の典礼暦も新しく迎えた 2011 年の年間の歩みを始めました。教会の典礼暦とともに歩む私たちの信仰生活は、インマヌエルとして私たちの日々の営みの中に来てくださった主とともに、主に導かれて歩む日々です。私たちのもとに来てくださり、私たちとともに歩んでくださる主は、福音書に語られている私たちの主イエス・キリストです。私たちが日曜日の度ごとに、こうして主の福音に耳を傾けるのは、福音書に語られている、私たちの主イエス・キリストを、私たちの日々の営みの中にお迎えするためです。日曜日のミサの福音を通して、主のみことばにあらためて耳を傾け、主の御体である聖体を受けて、私たちのこの一年の年間の日々は、私たちの牧者である主に導かれ、養われる日々となるのです。典礼暦の A 年に当たる今年の間主日ごとに、私たちはマタイ福音書に語られている主のみ後に従いながら、福音書の中に響く主のみことばを私たちに向けられたみことばとして受け止め、福音書の中で主イエスと出会った人々のように、主を私たちの中にお迎えして行きたいと思えます。

今日の日曜日は典礼の暦では、年間第二主日と表記されています。何故第一主日ではなく第二なのかと言うと、年間の最初の週は主の洗礼を祝った後の先週から始まっているからです。今日は年間の第二週のはじめの日であるので、年間第二主日ということになるのです。典礼の暦では、日曜日は週の終わりの安息日ではなく、週の始まり最初の日です。何故その週の始まりの日を主日として祝うかと言うと、私たちの主イエス・キリストは、ユダヤの人々の安息日が明けた週の初めの日に復活されたからです。私たちの日曜日のミサは、その主の復活を祝う主の日のミサとして、主日のミサと呼ばれるのです。このことは、キリスト者として生きる私たちの日々にとって、大きな意味を持っています。週ごとに区切られた生活のリズムに従って生きる日々の生活の中で、私たちは、私たちが信じる主イエス・キリストの復活を知った者たち、それゆえに復活を信じる者たちとして生きるのだということです。週の初めの主の日に、主の復活を祝った私たちは、その復活の主のいのちに与って、週日の困難な務めの日々を生きる力をいただくのです。週日の私たちの日常がどのような困難に満ちたものであるとしても、その日々は、私たちの主イエス・キリストの復活の栄光に連なる日々であるのです。

年間第二主日の今日、私たちはこの後の年間主日の、マタイ福音書に記された主イエスの足跡をたどる先だって、ヨハネ福音書に語られている洗礼者ヨハネのことばにもう一度耳を傾けるよう招かれています。今日の福音で、洗礼者ヨハネはイエスに洗礼を授けた時に、自分が体験したことを証言しています。洗礼者ヨハネは、イエスとその救い主としての活動を開始されるにあたって、イエスがどのようなお方であるかを自分に従う者たちに証しています。彼は、他の誰よりも早く、父である神と聖霊の啓示を受けて、父である神がイエスにお与えになった使命を見抜く恵みを受けたのです。今日の福音の洗礼者ヨハネのことばは、そのことを証しています。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」これが、イエスを指し示しながら洗礼者ヨハネが私たちに告げているイエスの神秘です。イエス・キリストは、世の罪を取り除く神の小羊として、私たちのもとに来られたお方なのです。世の罪とは、この世のいのちを生きる私たちを覆い尽くしている、私たちが自分たち自身のありようによって自ら生み出した罪です。その結果、私たちのいのちは、いたる所で、絶えず、破滅の脅威に曝されています。それが何故罪なのかと言うと、アダムの時以来、私たちは創造主である神のみ心に逆らって、自分たちの都合を優先させ、神がお定めになった秩序の世界を破壊し続けているからです。神を無視し、神に逆らうことによって、全てのいのちの源である神とのいのちの交わりを拒否し、神のみ前に身を隠そうとしたアダムの姿は、私たち自身の姿でもあるのです。こうして、私たちは自らの罪によって、自分一人に留まらず、他の者たちをも巻き添えにして、いのちの園である楽園を失う結果を招いたのです。

そのような世の罪、私たちがそのしがらみのもとであえぎ苦しむ、自ら招き寄せたいのちの危機から私たちを救い出すために、神のもとから遣わされた神の小羊として、イエス・キリストは私たちのもとに来てくださったのです。小羊はいけにえとしてささげられた小羊です。いけにえの小羊のごとくに、神のみ前に私たちの罪の全てを一身に背負って、私たちのために十字架の上にその血の最後の一滴まで流し尽くすことによって、私たちを贖ってくださった、神の小羊としての私たちの救い主イエス・キリストです。

今日の福音で洗礼者ヨハネは、私たちの眼前にそのような神の小羊であるイエス・キリストを指し示し、証しています。私たちにとってのイエス・キリストは何よりも、洗礼者ヨハネがイエスの全ての働きに先立って証している、このようなイエス・キリストです。イエスは、この世の罪にあえぎ苦しむ私のために、そのいのちの全てを与えつくしてくださった神の小羊としての私の救い主です。

そのようなお方としての私たちの主イエス・キリストの私たちへのみことばとして、これからの年間の主日の福音のみことばに耳を傾けて行きたいと思えます。イエスのみ後につき従って弟子たちが見聞きした全てのことを、私たちの

いのちの主であるイエス・キリストの、私たちへのメッセージとして受け止めて行きたいと思います。世の罪を取り除く神の小羊である主が、私たちの罪の全てを取り除いてくださって、彼が生きる神の子としての豊かないのちの中に、私たちをも招き入れてくださることを切に願って、教会の典礼暦とともに、この新たな一年の日々を歩みはじめたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高